

# 子育てバリアフリーにおける 世代間ギャップの存在に関する研究

奥山 有紀<sup>1</sup>・谷口 綾子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>非会員 筑波大学 理工学群社会学類 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1丁目1-1)

E-mail:okuyama70@sk.tsukuba.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 筑波大学大学院講師 システム情報工学研究科 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1丁目1-1)

E-mail:taniguchi@risk.tsukuba.ac.jp

本研究では、子連れ移動者による移動中のマナー・モラルの低下が指摘されている現状を受け、子連れ移動に対する世代間での価値観のギャップの存在を明らかにすることを目的とする。

主に首都圏在住の子持ち女性を対象としたインタビュー調査とwebアンケート調査を行い、世代間ギャップの存在について分析を行った。また、分析の際には年齢だけでなく職業の有無も考慮した。

その結果、週当たりの全体と子連れでの外出頻度、子連れで行ってもいいと思う(行ったことのある)場所、子連れで外出してもいいと思う時間、夫の育児参加に対する許容意識など、子育てに関する意識や行動には世代間ギャップが存在することが分かった。

**Key Words :** Attitude toward child raising, Generation gap, Occupations

## 1. はじめに

わが国では、1994年のハートビル法、2000年の交通バリアフリー法、そして2006年のバリアフリー新法などにより、公共施設や公共交通機関のバリアフリー化が積極的に進められてきた。しかし、これらの法律の対象は、高齢者・身体障害者であり、子連れ移動者は含まれていないのが現状である。

一方、1994年のエンゼルプランに始まり、2003年の少子化社会対策基本法、2004年の少子化社会対策大綱など少子化対策に向けた法整備の中で「子育てバリアフリーなどを推進する」という方針が掲げられるなど、近年注目が集まっている。

以上のように、バリアフリーにまつわる法整備が進み、子連れ移動に対する支援が行われるようになったことで、子連れで移動しやすい環境は徐々に整ってきたといえる。しかし近年、公共交通内でベビーカーを広げたまま乗車する、子供が騒いでも注意しない等、周囲の乗客の迷惑になっている例が多く見られるようになった<sup>1)</sup>。

さらに、柳田(2010)<sup>2)</sup>の中で行われたインタビュー調査において、子連れでの移動の許容範囲について50・60代

女性と20・30代女性の意見の間に大きな差異が見られた。前者は、基本的に子どもを連れて外出するのはやむを得ない事情があるときのみであったが、後者は、自分の行きたい所へ行っている傾向がある。つまり、バリアフリー化の推進およびその他の要因によって、子連れ移動に対する意識における世代間ギャップが存在している可能性も考えられるのである。

以上のように、鉄道や道路などの公共施設のバリアフリー化が進んだことにより、子連れで外出する人は増え、バリアフリー化の要望はさらに高まっている。しかしながら、現実的にはすべての公共施設をハード的にバリアフリー化することは困難であり、子連れ移動者自身の努力や工夫が必要になる場面がある。その際、子連れ移動者の行動について周囲の人がどのように感じているか、バリアフリー化がなされていない場所においてはどのように行動すべきか、といった情報が必要になる。特に、子育て経験者からの情報は非常に有効であると考えられる。

よって、子育てバリアフリーにおける世代間ギャップの存在を検証することは、心のバリアフリーに向けた取り組みの必要性を支持するものとなると考えられる。

## 2. 研究の目的および位置づけ

1.で述べたように、世代間ギャップの存在を明らかにすることは、子連れ移動者にどのようなことに注意して外出するべきか呼びかける際の手掛かりになり、心のバリア軽減のための世代間伝承の必要性を支持するものとなりうる。そこで、本研究では以下の仮説を検証することを目的とする。

### 【仮説】

子育てに関する意識や行動には、世代間ギャップがある。(外出頻度、子連れで行ってもいいと思う場所・時間、夫の育児参加への許容意識など)

以下に本研究の概要を述べる。

本研究は、子連れ移動の全般を対象としつつも、特に子連れで公共交通機関を利用する際のモラルの低下に重点を置いている。子連れ移動は、公共交通機関のサービスレベルにより、その難易度が大きく異なることは自明である。そこで本研究では、被験者の属性や社会環境を統制する意味で、公共交通網が発達し、住民の公共交通利用率高い東京都内(主に23区内)居住者を対象とする。

また、世代間ギャップ、職業の有無などによる価値観の差を計測するため、子持ちの20～60代女性で、専業主婦と有職者との両方からの意見を徴収することとする。

まず最初に、各世代を代表する数名を対象としたインタビュー調査を行い、そこで出た意見をもとにwebアンケート調査を設計し、実施する。そして、その結果を統計的に分析することによって、世代間ギャップの存在を明らかにする。

子連れ移動や子育てバリアフリーに関する研究は、さまざまな分野の専門家が、さまざまな方法で行ってきた。子育て従事者および子育て経験者にインタビュー調査やアンケート調査を行うことで、子連れ移動におけるバリアの存在を示す事例は数多く存在する<sup>3)</sup>が、世代間ギャップに着目し、その差を計測しようとしたものは見られない<sup>4)</sup>。

また、「子育て」の歴史を紹介した文献はいくつか見られる<sup>45)</sup>が、「子連れ移動」に対する意識における世代間ギャップを指摘したものも存在しない。

本研究は、幅広い世代を対象とした調査により、子連れ移動に対する世代間ギャップの存在を検証するという点で、独自性を有した研究であるといえる。

なお、以下に本研究で使用する用語の定義について述べる。

### ・子育てバリアフリー

「子育てを支援する生活環境の整備」。本研究では、主に建築物・歩行空間のバリアフリー化を指す。

### ・子連れ移動(者)

子供(未就学児)を連れて移動すること(人)。

### ・乳児…歩く前の子供、0～1歳ぐらい。

### ・幼児…未就学の子供、2～5歳ぐらい。

## 3. 子育てバリアフリーに関するインタビュー調査

子連れでの外出については、世代により認識が異なり、このことが子連れ移動者と周囲の人々との心理的バリアを形成する一因となっていると考える。そこで、本調査では各世代から数名を対象としたインタビュー調査を行い、子連れ移動に対する意識・意見を抽出するものとする。ここで得られた意見は、後に行うアンケート調査の設問設計に使用する。

### (1) 調査対象

インタビュー調査の対象者は、主に首都圏在住の20代、30代、40代、50代、60代、80代の子持ち女性各1～3名程度(専業主婦/有職者)とする。

なお、各対象者の属性は表1に示すとおりである。

### (2) 結果の概要

インタビュー調査の結果の概要を、表2に示す。

表-1 インタビュー調査対象者の属性

名前	年齢	職業 (現在)	職業 (子育て時)	子供	居住地
Aさん	82	専業主婦	専業主婦	60, 57, 53, 47	目黒区
Bさん	67	専業主婦	自営業手伝	39, 34	中野区
Cさん	65	専業主婦	専業主婦	39, 34	中野区
Dさん	64	専業主婦	専業主婦	38, 36	大分県
Eさん	55	パート	専業主婦	28, 24	杉並区
Fさん	51	英会話講師	専業主婦	22, 18	三鷹市
Gさん	46	専業主婦	専業主婦	19, 17, 14	杉並区
Hさん	46	専業主婦	専業主婦	22, 19, 16	小金井市
Iさん	43	大学准教授	大学助手	11	品川区
Jさん	39	専業主婦	専業主婦	7, 4	目黒区
Kさん	36	医師	専業主婦	7, 4	目黒区
Lさん	29	客室乗務員	専業主婦	2	港区
Mさん	28	専業主婦	専業主婦	3, 9ヶ月	神奈川県
Nさん	25	学生	学生	1	江東区

表-2 インタビュー調査結果の概要

名前	Aさん(82)	名前	Bさん(67)	名前	Cさん(65)
実施日・場所	2010/12/10 10:30~11:20, 目黒区東山	実施日・場所	2010/12/9 12:00~14:00, 杉並区阿佐ヶ谷	実施日・場所	2010/12/9 12:00~14:00, 杉並区阿佐ヶ谷
職業(現在)	専業主婦	職業(現在)	専業主婦	職業(現在)	専業主婦
職業(子育て時)	専業主婦	職業(子育て時)	自営業手伝い	職業(子育て時)	専業主婦
子供	4人(60,57,53,47歳)	子供	2人(39,34歳)	子供	2人(39,34歳)
居住地(現在)	目黒区東山(S30~)	居住地(現在)	中野区中野坂上	居住地(現在)	中野区沼袋
居住地(子育て時)	山梨県御坂町(6年), 文京区茗荷谷(1年)	居住地(子育て時)	中野区中野坂上	居住地(子育て時)	中野区沼袋
出身地	山梨県石和市	手伝い有無	夫の母(同居)	手伝い有無	両親
手伝い有無	長女, 最寄会	おむつ	布	おむつ	布
おむつ	布	子連れ外出許容時間	乳児期…外出はあり得ない 幼児期…外食は19時まで, 21時はまずいと思う	子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに17時
子連れ外出の手段・方法	・当時は出歩いているお母さん自体少なかつたため, あまり外出しなかつた ・美容院へ行くとき, デパートへ行くときなどは, 子どもは家に置いていった ・帰省時はバス, 電車 ・ベビーカーは無し ・買い物は徒歩, おんぶ	子連れ外出の手段・方法	・おんぶひも, ベビーカー ・自転車には乗せなかつた ・電車で行くような買い物に子供は連れて行かなかつた ・車で出かけることもあつたが, チャイルドシートはなかつた	子連れ外出の手段・方法	・近所の買い物は自転車 ・散歩はベビーカー ・デパートなどでの買い物はほとんどしなかつた ・どうしても出かけるときは, 母に預けた
外出時困っていたこと	荷物を全部持たなければならぬこと	外出時困っていたこと	困らないように子供を置いて行くなど工夫した	外出時困っていたこと	・ショッピングカートもないので, 子連れだとたくさん荷物が持てなかつた ・トイレの個室に子供と一緒に入れなかつた
子連れ外出で優先していたこと	自分の予定優先で, 短時間しか出かせなかつた	子連れ外出で優先していたこと	夫の母に対して遠慮があつたため, 外出を控えていたところがある	子連れ外出で優先していたこと	・夕食は家で食べるのが基本 ・子供が育つ環境は大事, ネオンなど見せるべきではない
上の世代から言われたこと	あまり覚えていない	今の子育て世代について思うこと	・服装が家にいるスタイルではないと思う ・電車でもバスでも, ベビーカーをよく見かける ・ベビーカーの月極レンタルがあるのには驚いた ・自分たちに比べるとずっと恵まれていると思う	今の子育て世代について思うこと	・デパートに若いお母さんが結構来ている ・卵型のベビーカーを見て驚いた ・ランチやお稽古など, 趣味に時間を費やす人が多いと思う. 余裕がある
今の子育て世代について思うこと	・中華街に子連れで来ている人を見て驚いた ・みんな上手に子育てしていると思う ・あまり子どもを多く産まなくなつた	夫が子育てを手伝うことについて	・自宅で店をやつていたので, 合間で遊んでくれることはあつたが, 基本的には母親が子育てする時代 ・夫は子供に対して厳しいところもあり, 怒って納屋に放り込んだこともあつた	夫が子育てを手伝うことについて	休日などは遊んでくれたが, 今ほど協力的ではなかつた
夫が子育てを手伝うことについて	・当時は手伝わぬのが普通だつた ・夫は機嫌がいいときだけ抱っこする程度	バリアフリー化推進に対する意見	便利にはなつていると思うので, やってほしい	バリアフリー化推進に対する意見	・踏切で, ベビーカーのタイヤが線路の隙間に挟まつたこともある ・車いすで出かける人も増えたと思う
孤立感を感じたか	週に1回「友の会」に行つていた. 洋裁教室や料理教室などやつていた	その他	・双子の孫がいる. できる範囲で手伝うようにしている ・子供が安心して遊べる場所が少ない. 住宅街は見通しが悪くて心配	その他	電車の中で携帯電話に夢中になつているのはよくないと思う
バリアフリー化推進に対する意見	駅にエレベーターがあつたり, トイレに子供用の椅子があつたりしてうらやましい				
その他	夫が早く帰つてきてくれたり, 買い物してきてくれたりするのはいい傾向だと思ふ				

名前	Dさん(64)
実施日・場所	2010/11/18 16:15～16:45, 目黒区東山
職業(現在)	専業主婦
職業(子育て時)	専業主婦
子供	2人(38,36歳)
居住地(現在)	大分県
居住地(子育て時)	愛媛県
出身地	大分県
手伝い有無	なし
おむつ	布
子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに日中
子連れ外出の手段・方法	・近場は自転車(下の子はおんぶ, 上の子は後ろ) ・遠出するときは車, チャイルドシートはなかった ・抱っこひもはなかった. おんぶで出かけることはあった
外出時困っていたこと	おむつを持ち歩くのが大変だったが, そんなに困ってはいなかった. 子育てに燃えていた
上の世代から言われたこと	泣いてすぐ抱っこすると「抱き癖」が付く, 同じ姿勢で寝かせると絶壁あたまになる, など
今の子育て世代について思うこと	・21時ごろにコンビニに赤ちゃんを連れてくる人を見て驚いた ・今はしつけでも子供をたたいてはいけなく思っている親がいる ・裸足で歩くことが減った
バリアフリー化推進に対する意見	・赤ちゃんの時はエレベーターなど使っていていいと思うが, 歩けるようになったら歩かせた方がいいと思う ・大人でも, 足腰が弱る前の若いうちには, 乗らなくてもいいと思う
その他	・子供とは社会見学のつもりで, 気軽に出かけていた ・自分はベビーブームの時期に生まれた. 周りでも子育てしている人が多く, お店で授乳したり, ベンチでおむつ替えるなどしていた

名前	Eさん(55)
実施日・場所	2010/12/9 12:00～14:00, 杉並区阿佐ヶ谷
職業(現在)	パート
職業(子育て時)	専業主婦
子供	2人(28,24歳)
居住地(現在)	杉並区高円寺北
居住地(子育て時)	杉並区和田
手伝い有無	なし
おむつ	ほとんど布, 出かけるときだけ紙
子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに22時 大晦日などはもっと遅かった
子連れ外出の手段・方法	・上の子だけの時はおんぶやベビーカーで電車に乗ってデパートに行くなどよく出かけていた ・下の子が生まれると2人を自転車の前後に乗せて出かけることが多かった
外出時困っていたこと	・トイレに子供と一緒に入れなくて, 店員さんに預けたことがある ・電車で邪魔にならないようドア付近に立っていたら子供の手が挟まれた ・スーパーにカートがなく, 歩かせていた子供が転んでけがをした
子連れ外出で優先していたこと	母親の介護が忙しく, 子供を置いていくことが多かった
上の世代から言われたこと	・マジックテープでとめるおむつカバーを利用していたところ, 祖母には「おむつカバーができてよかったわね」と言われ, 母には「ボタンではなくマジックテープになってよかったわね」と言われた
今の子育て世代について思うこと	・若いお母さんも, ベビーカーもおしゃれだと思う ・居酒屋に行く気持ちはわかるが, 連れてくる時間があまりに遅いとびっくりする ・寝る時間が遅くて, 保育園で午前中寝ている子供はかわいそうだと思う
バリアフリー化推進に対する意見	・進んでいるという割には, 全然足りないと思う ・エレベーターの接続が悪いのは困る. また, エレベーターに乗れなかった人から罵声を浴びたこともある
その他	・家のそばに空き地があり, 家事をしながら遊んでいるのを見ることができたが, 今はなくなった

名前	Fさん(51)
実施日・場所	2010/12/9 12:00～14:00, 杉並区阿佐ヶ谷
職業(現在)	英会話講師
職業(子育て時)	専業主婦
子供	2人(22,18歳)
居住地(現在)	三鷹市
居住地(子育て時)	イギリス(1年) 静岡県三島市(～2003)
手伝い有無	なし
おむつ	上の子夜だけ紙, 下の子紙
子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに18時 20時には寝かせたかった
子連れ外出の手段・方法	・ほとんど車, チャイルドシートはマストアイテム ・近所に行くときのみ抱っこひもとベビーカー ・自転車に子供を乗せる椅子は持っていなかった
外出時困っていたこと	飛行機の耳鳴りに子供が泣きやまなかった
子連れ外出で優先していたこと	核家族なので, 好きなように出かけることができた
今の子育て世代について思うこと	・お母さんたちがおしゃれ ・携帯電話を歩きながらやっているのは危ないと思う
夫が子育てを手伝うことについて	帰りが遅く, お風呂に入れるときなど手伝ってもらえなかった
孤立感を感じたか	ほとんど家事にかかりつきりだったが, 年に何度かお芝居やコンサートを見に行く「親子劇場」に参加して, 気晴らしになった
バリアフリー化推進に対する意見	エスカレーターなどを設置した分階段が狭くなるのは不便
その他	道の角で, 子供が乗る自転車とぶつかりそうになり, 自分が転んだことがある

名前	Gさん(46)	名前	Hさん(46)	名前	Iさん(43)
実施日・場所	2010/11/18 12:45~13:50, 杉並区荻窪	実施日・場所	2010/11/18 12:45~13:50, 杉並区荻窪	実施日・場所	2010/12/1 15:30~16:30, つくば市天王台
職業(現在)	専業主婦	職業(現在)	専業主婦	職業(現在)	大学准教授
職業(子育て時)	専業主婦	職業(子育て時)	専業主婦	職業(子育て時)	大学助手
子供	3人(19,17,14歳)	子供	3人(22,19,16歳)	子供	1人(11歳)
居住地(現在)	杉並区荻窪	居住地(現在)	小金井市	居住地(現在)	品川区
居住地(子育て時)	徳島県(2年半), 調布市(7年), アメリカ	居住地(子育て時)	杉並区阿佐ヶ谷(2年), 山梨県甲府市(2年)	居住地(子育て時)	港区三田(3年)
出身地	町田市	出身地	山梨県勝沼町	手伝い有無	両親, バイトのおばあさん
手伝い有無	家政婦(調布)	手伝い有無	なし	おむつ	紙
おむつ	布を使っていた。紙は高く最初抵抗があったが途中から変えた	おむつ	長女のみ布, あとは紙	子連れ外出許容時間	乳児期はむしろ関係ない, 幼児期は22時
子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに17時	子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに夏場は18時, 冬場は17時	子連れ外出の手段・方法	・最初のころはベビーカー ・4.5歳まで座らせて抱っこする道具を使っていた ・保育園までの送り迎えはバス ・重いものを買うときは車. 夫は自転車に乗ったが自分は乗らなかった
子連れ外出の手段・方法	・基本的にはベビーカーと徒歩 ・子供が2人の間はスーパーとの往復で自転車 ・子供を乗せて運転することに抵抗があった ・肩こりがひどく, おんぶひもや抱っこひもは使わなかった ・長距離の移動は避けた	子連れ外出の手段・方法	・杉並では徒歩, ベビーカー, 抱っこひも, 三輪車 ・甲府では車 ・小金井では自転車, ベビーカー	外出時困っていたこと	・ラーメン屋に行けないこと ・筑波勤務になり, 急病時など誰かに頼まなければならなかったこと
外出時困っていたこと	子供連れでトイレに入れなかった	外出時困っていたこと	・電車に乗るときにベビーカーを持ちあげなければならなかった ・授乳室がどこにでもあるわけではなかった	子連れ外出で優先していたこと	何も考えなかった. 保育園が規則的にやってくれるので, 土日はどうでもいいと思っていた
子連れ外出で優先していたこと	・子供のペースを崩してはいけないと思っていた ・人込みは病氣も移るし, 親の都合で連れまわしてはいけないと思っていた	子連れ外出で優先していたこと	食事や授乳の時間を考えて出かけた	上の世代から言われたこと	・あまり言われなかった。「保育園が素晴らしい」と語るから, 諦められていたのでは ・両親に「これ以上連れてこないで」と言われるほど預けた
上の世代から言われたこと	・覚えていないが, 昔と劇的には変わっていない時代だった ・「布おむつを夜干すと子供が泣く」と言われた	上の世代から言われたこと	夫がおむつ替えを手伝おうとしたところ, 夫の母に「うちの息子にそんなことやらせるなんて」と言われた	今の子育て世代について思うこと	・代々木体育館の「ママフェスタ」に集まる何百人ものママを見て, 「どこが少子化?」と思った ・山手線の混んだ車内に子供を連れて乗るのは, 自分にはできないと思う ・子供を連れて入れるお店が明らかに増えている
今の子育て世代について思うこと	・ベビーカーがかっこいい ・ちゃんと化粧してすごい. 若いのに2, 3人連れて歩いているのを見ると偉いと思う ・社交的. 精神衛生上その方がいいと思う. 体力もある. 感心する. 安全には気をつけるべき	今の子育て世代について思うこと	・ファミレスで大勢で食べているのを見て驚いた ・友達づくりも上手な人が多いと思う ・デパートでおしゃれなお母さんを見るとびっくりする. 外で楽しめる場が増えてうらやましい ・化粧してる間に子供が泣いていないか心配になる	夫が子育てを手伝うことについて	・普通. 外の目を気にする状況にあまりならない ・夫が最初, 子供の為に責任を取ることに抵抗した
夫が子育てを手伝うことについて	・アメリカにいるときには手伝ってくれた ・抱っこは女の人がするものだと思っていた	夫が子育てを手伝うことについて	「あのお母さん, お父さんに子供持たせて」と白い目で見られるのが嫌だった	孤立感を感じたか	ない. 産後2ヶ月家にいたが, 家にいることに飽きて職場復帰した
孤立感を感じたか	・非常にたくさんある ・子育ても家事も全部自分がやらなきゃいけないと思込んでいたから, こもりがちだった	孤立感を感じたか	・家にずっといると, さみしくなったり, 先行き不安になった ・山梨には子育てサークルはなかった	バリアフリー化推進に対する意見	ポジティブ. 地下鉄のバリアフリー化はどうするのか気になる. 山手線は容量的にこれ以上ベビーカーは乗れないのではないかとと思う
バリアフリー化推進に対する意見	・整備することに関しては賛成. 人間どの年代にもやさしくしてほしいと思う ・安全には注意して見守るべき	バリアフリー化推進に対する意見	・子供が騒ぐのを放っておく, 場所をとるなど迷惑なことは控えてほしい ・エレベーターに無理やり押し込んでくるベビーカーは困る	その他	・アメリカは, 当時から赤ちゃん用品が進んでいた

名前	Jさん(39)
実施日・場所	2010/12/10 12:00~13:00, 目黒区大橋
職業(現在)	専業主婦
職業(子育て時)	専業主婦
子供	2人(7,4歳)
居住地(現在)	目黒区大橋(2010.4~)
居住地(子育て時)	オーストラリア・アルパニ(5年), タイ・パタヤ(2年)
出身地	町田市
手伝い有無	現在…母, タイ…メイド
おむつ	紙
子連れ外出許容時間	乳児期は気にしない, 幼児期は17時. 土日は遅くても平気
子連れ外出の手段・方法	・現在は電車・バス, ベビーカー. 自転車は練習中 ・タイでは車, ストローラー ・オーストラリアでは車, ベビーカー, 背負子
外出時困っていたこと	・雨の日の外出, 子供を病院に連れて行くとき ・電車とホームの間に子供の片足が落ちた ・子連れで行ってもいいレストランの区別が付きにくい. バスで騒いで怒られたこともある
子連れ外出で優先していたこと	・子供の昼寝の時間を計算して出かける, ストローラーを持っていくなど工夫 ・天気予報をよく見る
上の世代から言われたこと	・母から「おむつが楽になっていいわね」と言われる. 何かあるごとに「病院に行け」と言われる ・公園で会うおばあさんに, 「楽器を習わせなさい」「木の名前を図鑑で調べなさい」と言われる
今の子育て世代について思うこと	・最近のママたちはキレイ ・体型も維持していてすごいと思う
夫が子育てを手伝うことについて	・どんどんやってほしい ・夫の母の目があるとき限定で, あまりやらせてはいけないという気持ちが生まれる
孤立感を感じたか	・夫の帰りが遅い. 早く帰ってきてほしい ・オーストラリアで長男を産んで1年ほど体調も悪く, マタニティブルーになった
その他	海外のほうが, 子供のことをかわいがってくれたように思う

名前	Kさん(36)
実施日・場所	2010/11/18 15:00~16:00, 目黒区東山
職業(現在)	医師
職業(子育て時)	専業主婦
子供	2人(7,4歳)
居住地(現在)	目黒区東山
居住地(子育て時)	埼玉県所沢市, 京都府舞鶴市, 東京都世田谷区梅が丘, オーストリア(1年), 東京都世田谷区(3年)
出身地	福島県
手伝い有無	両親, ファミリーサポート, 保育園
おむつ	紙, 一時期布を使っていたがやめた
子連れ外出許容時間	乳児期は19時, 幼児期は21時
子連れ外出の手段・方法	・近くは徒歩, ベビーカー, 抱っこひも ・帰省時などは車 ・現在は徒歩, バス, 自転車 ・子供が大人しくできないので, 電車はあまり乗らない
外出時困っていたこと	・トイレに急に行きたがるとき. ベビーベッド, 授乳室がないときなど ・荷物をたくさん持たなければならぬこと
子連れ外出で優先していたこと	子供の昼寝の時間にかからないように外出すること
上の世代から言われたこと	抱き癖について言われた
今の子育て世代について思うこと	・お母さんがおしゃべりしてる. 自分ではできないと思っていた ・子供の髪を染めるのはかわいそうだと思う
夫が子育てを手伝うことについて	・やってもらわなきゃ困る ・家事を手伝ってくれるかどうかは気分による ・急病の時は休みを取ってくれる
孤立感を感じたか	・一年間は子供のために休むべきと思っていた ・所沢, 舞鶴では友達が少なくて辛かった ・オーストリアはすごく楽しかった
バリアフリー化推進に対する意見	ポジティブ. 段差をなくしたり, 孤立しないための施策をとるなどの支援はすべき
その他	オーストリアのほうが子連れに対して温かかった. 自然に手伝ってくれた

名前	Lさん(29)
実施日・場所	2010/12/16 13:00~13:50, 港区高輪
職業(現在)	客室乗務員
職業(子育て時)	専業主婦
子供	1人(2歳)
居住地(現在)	港区高輪
居住地(子育て時)	港区高輪
出身地	石川県羽咋市
手伝い有無	なし
おむつ	紙
子連れ外出許容時間	乳児期, 幼児期ともに18時
子連れ外出の手段・方法	・歩いて行ける範囲はすべて歩き. 保育園の送迎など時間に制約があるときはベビーカー ・車, 電車は公園や買い物に行くときなど
外出時困っていたこと	・エレベーターの接続が悪い ・改札の幅が狭く, ベビーカーで通れない ・子供用の便器がない, 水の流れる音を怖がる ・電車とホームの隙間 ・歩道が狭い
子連れ外出で優先していたこと	・ご飯の時間を考えて外出 ・昼寝はあまりしないので気にしない
上の世代から言われたこと	・医者から靴下を履かなくていいと言われたのでそうしていたところ, 義母に「寒いから」と言われ靴下を履かせた ・「布おむつ毎日洗っていた, 何枚干したのか」と言われた
今の子育て世代について思うこと	・装備がすごい. 自分の時にはなかった付属品がある. 抱っこひもも変わった ・おしゃべりなど, 「そこまで気張らなくてもいいのに」と思う
夫が子育てを手伝うことについて	・機嫌が悪いとき, 夫が子供の面倒を見てくれる ・休日に父と息子の2人で海に行ってきたこともある ・保育園に朝送ってくれる
孤立感を感じたか	公園にしょっちゅう行っている, ママ友には困らなかった
バリアフリー化推進に対する意見	いいと思う. ちょっとした23段でもバリアなので全部バリアフリーになってもいいと思う
その他	・手伝ってくれるのは, 「この人子供いるんだろかな」という世代の人が多い ・職場の制度(深夜免除)のおかげで両立できている

名前	Mさん(28)		んは神経質になりすぎてる」と言われた	の手段・方法	ほうが多い。電車の移動がほとんど
実施日・場所	2010/12/16 14:45～15:20, 神奈川県川崎市宮前区	今の子育て世代について思うこと	ベビー用品にも流行りがあるなと思っている	外出時困っていたこと	子供を歩かせると、思った方に動いてくれない。しゃべらないから何を考えているかわからない
職業(現在)	専業主婦	夫が子育てを手伝うことについて	最初の頃、けがや病気をすると「お前のせいだ」と言われたが、今では開き直っている	子連れ外出で優先していたこと	自分の予定。大学に連れて行ったり、買い物に行ったりする
職業(子育て時)	専業主婦	孤立感を感じたか	365日、24時間母親でいると、ささいなことにカチンとしてしまうことがある	上の世代から言われたこと	母は専業主婦だったが、ほとんど「覚えていない」と言っている。ミルクを長く飲ませるべきと保健所の指導があったと言うと「違うわ」と言われた
子供	2人(3歳9ヶ月)	バリアフリー化推進に対する意見	子供がいる世代にとって、外出しやすくなっていいと思う。もっとやってほしい	今の子育て世代について思うこと	先輩ママはキレイだと思う。体型も変わらない。自分も歳をとりたくない
居住地(現在)	神奈川県川崎市宮前区	その他	・買い物は、料金が高いが宅配を利用している ・来年度以降、子供を預けて再就職したい	夫が子育てを手伝うことについて	・3人で出かけるときは、夫が必ず抱っこしてくれる ・ベビーカーのデザインは夫の趣味。「イクメンになりたい」と言っている
居住地(子育て時)	神奈川県川崎市宮前区			孤立感を感じたか	イライラすると、子供の泣き声でノイローゼになりそうになる。土日ずっと一緒にいると、早く学校に行きたくなる
出身地	大田区	名前	Nさん(25)	バリアフリー化推進に対する意見	・最近増えていると思う。インターネットで調べて出かけるから困っていない ・エレベーターのないところで手伝ってくれる人がいて助かった
手伝い有無	夫の両親	実施日・場所	2010/12/13 9:00～9:40, 千代田区神田	その他	・夫は単身赴任中 ・子供は勝手に育つと思う ・卒業後は小学校の先生を目指して勉強する。2人以上産むのはノルマだと思う
おむつ	紙	職業(現在)	学生		
子連れ外出許容時間	乳児期、幼児期ともに18時 休日は気にしない	職業(子育て時)	学生		
子連れ外出の手段・方法	近場のみベビーカー、おんぶひも。坂が多いので車やバスでの移動が多い	子供	1人(1歳)		
子連れ外出で困っていたこと	・ベビーカーでバスに乗るとき、周りの乗客や運転手に気を遣う。固定しないうちに発車されることもある ・まだエレベーターのない駅があり、待ち合わせに1駅歩いてきた人もいた ・最初は荷物が多くて驚いたが、今は慣れた ・ベビーカーで入れるトイレがないときは困る	居住地(現在)	江東区		
子連れ外出で優先していたこと	特に気にしていない	居住地(子育て時)	江東区		
上の世代から言われたこと	・喫煙者の母から「タバコの煙の中でも子供は育つのに」と言われた ・近所の人からは「今のお母さ	出身地	江東区		
		手伝い有無	両親		
		おむつ	紙		
		子連れ外出許容時間	乳児期、幼児期ともにラッシュ前まで		
		子連れ外出	ベビーカーも使うが、抱っこ		

### (3) まとめ

様々な年代の方々へのインタビュー全体を通して、ベビーカーや抱っこひもなど運搬用具の普及、エレベーターやスロープの設置といったバリアフリー化の推進、ショッピングカートやトイレの子供用椅子といった施設運営者側の配慮、紙おむつや瓶入り離乳食の登場など、子連れ移動がしやすい環境がさまざまな形で整えられてきたことが分かる。

このような現状を受け、今の子育て世代に対して「うらやましい」、「恵まれている」と感じている子育て経験者は多かったが、「当時はそれが当たり前だった」という意見に現れているように、困難な状況の中でもそれぞれに工夫を凝らした子育てを行ってきた様子が伺えた。子育てバリアフリーの推進については、多くの人がポジティブにとらえていた。

しかし、父親の育児参加や母親の育児態度(外出頻度、安全への配慮)などについて、世代ごとに価値観の違いが見られる可能性がある。さらに、「子連れ外出の許容時間」に対する回答からも読み取れるように、子連れ移動や子育てに対する価値観においては、世代間だけでなく職業の有無によっても差がある可能性が示された。

なお、今回のインタビュー対象者は、筆者らの知人およびその紹介によってご協力いただいたことから、偏りがある可能性は否定できない。

以上の議論を踏まえ、子連れ移動や子育てに対する価値観には、どのような要素が影響を及ぼしているかを、次章において行うアンケート調査の分析により明らかにしていくこととする。

#### 4. 子育てバリアフリーに関するwebアンケート調査

先に述べた仮説を検証し、インタビュー調査の結果も考慮した上で、子育てバリアフリーに対する価値観の違いについてさらなる見識を深めるために、子育て従事者及び子育て経験者を対象としたwebアンケート調査を行う。

##### (1) 調査対象

アンケート調査の対象者は、東京都(主に23区)ない居住者のインターネット調査会社のモニターで、20～60代の子持ち女性、各世代専業主婦100名、有職者100名の合計1,000名である。

##### (2) 調査の手続き

アンケート調査では、東京都23区内の居住者を対象に、子どもが未就学児であったときの子連れ移動に関する仮説の検証を行うため、対象者の子どもの年齢によって文面を使い分ける必要がある。しかし、インターネット調査会社が事前に把握している情報では、子供の有無、都道府県レベルでの居住地までしか分かっておらず、子供の正確な年齢、市区町村レベルの居住地、子育て時の職業を事前に調査しなければならない。

そこでまず、インターネット調査会社のモニターである東京都内在住、20～60代の子持ち女性10,000名を対象としたスクリーニング調査を実施し、条件に合致した人を対象とした本調査を行った。各調査のスケジュールは以下のとおりである。

スクリーニング調査 2011年1月7日(金)～11日(火)  
本調査 2011年1月12日(水)～14日(金)

アンケート調査の質問項目のうち、本研究の分析に用いたものを表3に示す。

また、アンケート調査の配布回収数は、表4のとおりである。

#### 5. 仮説の検証

##### (1) 外出頻度

週当たり全体の外出頻度と子連れでの外出頻度それぞれについて、世代間と職業有無によるギャップがあるかどうかを、分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、若い人ほど週全体および子連れでの外出頻度が高いことが分かった(全体 $t=6.454, p<.00$ , 子連れ $t=5.073, p<.00$ )。また、専業主婦は有職者に比べ、子連れでの外出頻度が高いことも明らかになった( $t=5.616, p<.00$ )。図1は、各世代、職業別の週当たり全体

および子連れでの外出頻度の平均値をグラフにしたものである。

表-3 アンケート調査質問項目(一部)

区分	質問文
年齢_本人	あなたの年齢を教えてください。
職業_現在	あなたの現在のご職業を教えてください。
年齢_子ども	あなたのお子さんの年齢を教えてください。
外出頻度	あなたは、買い物や仕事などで週に何回程度外出しますか。 そのうち、子連れで外出するのは週に何回程度ですか。
子連れ外出許容施設	以下の中から、乳児期(幼児期)の子供を連れて行ってもいいと思う(連れて行ったことがある)場所をすべて選んでください。【選択肢】コンビニ、スーパー、デパート、居酒屋、ファミレス、その他レストラン、あてはまるものはない
子連れ外出許容時間	乳児期(幼児期)の子供を連れて外出するのは、何時頃までだったら平気だと思いますか。
夫参加許容	子連れで外出する際、夫に子供を抱いてもらうのは周囲の目が気になる(「とても思う」～「全くそう思わない」の5段階)

表-4 アンケート調査配布回収数

専業主婦	20代	30代	40代	50代	60代	計
配布数	100	100	100	100	100	500
回収数	100	100	100	100	100	500
回収率	100%	100%	100%	100%	100%	100%

有職者	20代	30代	40代	50代	60代	計
配布数	100	100	100	100	100	500
回収数	40	100	100	100	100	440
回収率	40%	100%	100%	100%	100%	88%

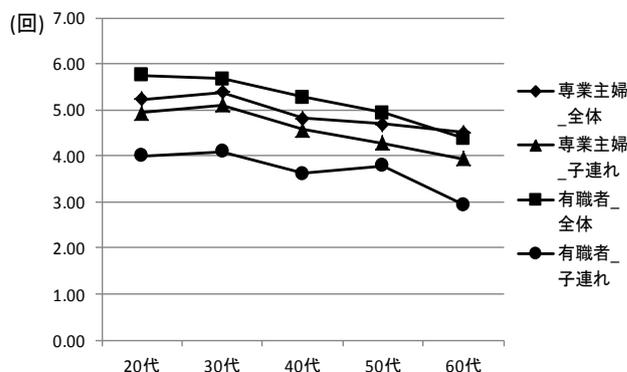


図-1 外出頻度-年齢、職業有無の関係

(2) 子連れ外出許容(経験)施設

1) 子連れ外出許容施設(乳児期)

乳児期の子どもを連れて行ってもいいと思う施設について、世代間と職業有無によるギャップがあるかどうかを、分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、すべての施設において年齢との間には有意な負の相関が見られた(すべて $p<.00$ )。

さらに、職業有無については、ファミレスのみ有意な負の相関が見られた( $t=-2.269, p<.023$ )。しかし、ほとんどの施設において、職業有無と乳児期の子連れ外出許容施設との間に有意な結果は得られなかった。

図2.1.2.2は、乳児期の子どもを連れて行ってもいいと思う施設の世代別回答者の割合を職業別に集計したものである。

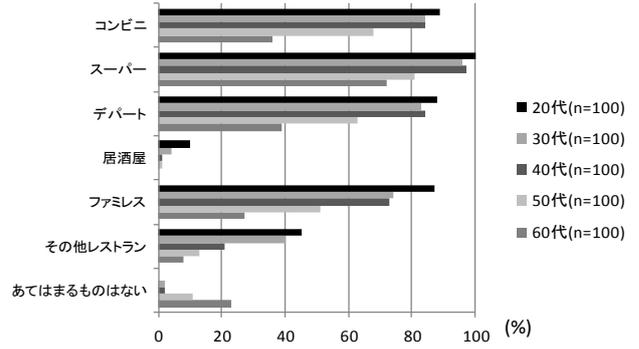


図-2.1 子連れ外出許容施設(乳児期, 専業主婦)

2) 子連れ外出経験施設(乳児期)

乳児期の子どもを連れて行ったことがある施設について、世代間と職業有無によるギャップがあるかどうかを、分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、すべての施設において年齢との間には有意な負の相関が見られた(すべて $p<.00$ )。しかし、すべての施設において、職業有無と乳児期の子連れ外出経験施設との間に有意な結果は得られなかった。

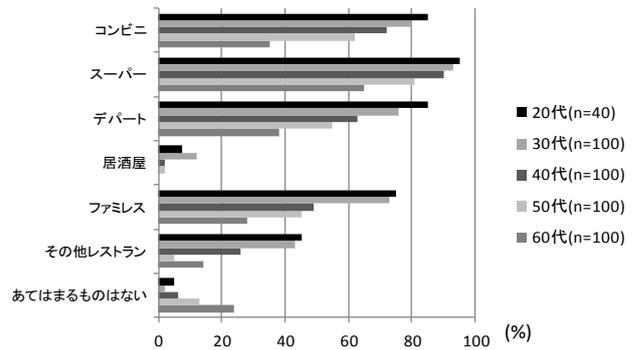


図-2.2 子連れ外出許容施設(乳児期, 有職者)

図3.1.3.2は、乳児期の子供を連れて行ったことがある施設の世代別回答者の割合を職業別に集計したものである。

3) 子連れ外出許容施設(幼児期)

幼児期の子どもを連れて行ったことがある施設について、世代間と職業有無によるギャップがあるかどうかを、分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、すべての施設において年齢との間には有意な負の相関が見られた(スーパーのみ $p<.001$ ,他すべて $p<.00$ )。

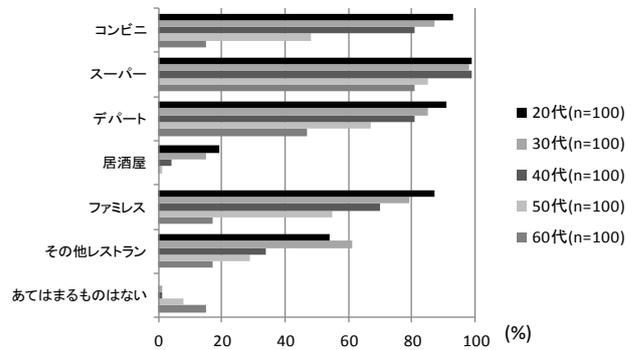


図-3.1 子連れ外出経験施設(乳児期, 専業主婦)

さらに、職業有無については、居酒屋のみ有意な正の相関が見られた( $t=2.183, p<.029$ )。しかし、ほとんどの施設において、職業有無と幼児期の子連れ外出許容施設との間に有意な結果は得られなかった。

図4.1.4.2は、幼児期の子どもを連れて行っていいと思う施設の世代別回答者の割合を職業別に集計したものである。

4) 子連れ外出経験施設(幼児期)

幼児期の子どもを連れて行ったことがある施設について、世代間と職業有無によるギャップがあるかどうかを、分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、すべての施設において年齢との間には有意な負の相関が見られた(すべて $p<.00$ )。

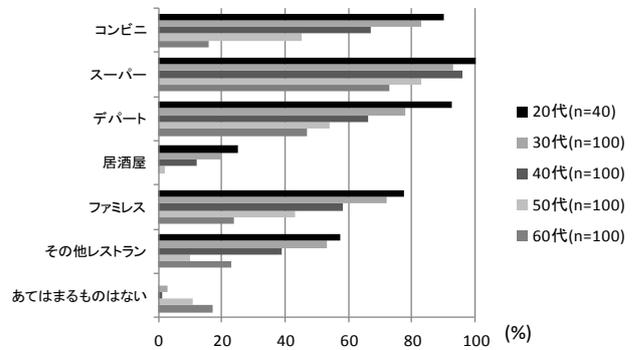


図-3.2 子連れ外出経験施設(乳児期, 有職者)

さらに、職業有無については、居酒屋のみ有意な正の相関が見られた( $t=3.060, p<.002$ )。しかし、ほとんどの施設において、職業有無と幼児期の子連れ外出経験施設との間に有意な結果は得られなかった。

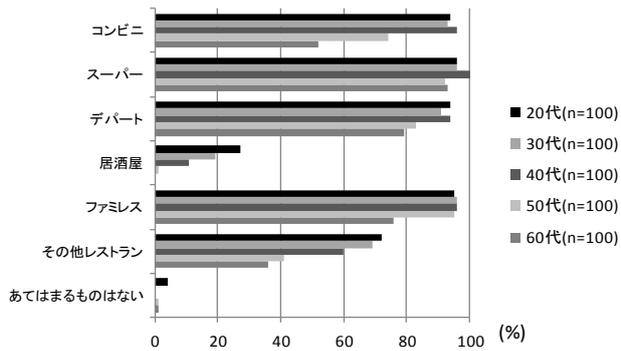


図-4.1 子連れ外出許容施設(幼児期, 専業主婦)

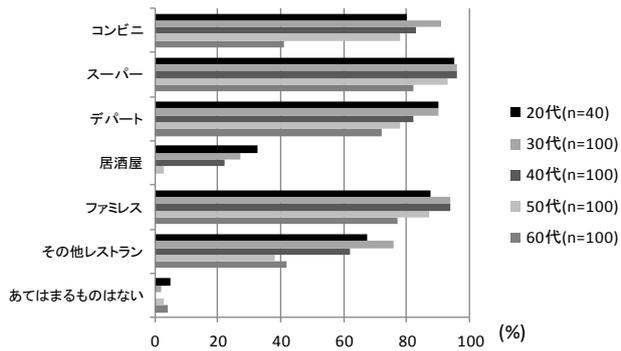


図-4.2 子連れ外出許容施設(幼児期, 有職者)

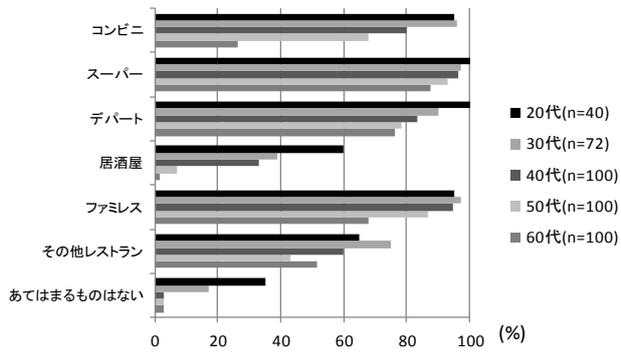


図-5.1 子連れ外出経験施設(幼児期, 専業主婦)

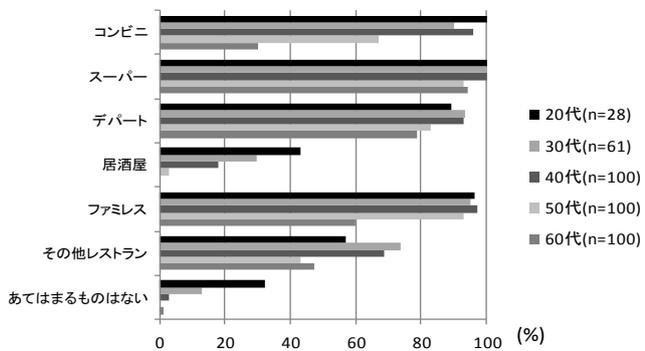


図-5.2 子連れ外出経験施設(幼児期, 有職者)

図5.1.5.2は、幼児期の子供を連れて行ったことがある施設の世代別回答者の割合を職業別に集計したものである。

### (3) 子連れ外出許容時間

乳児期と幼児期の子供を連れて外出してもいいと思う時間のそれぞれについて、世代間と職業有無によるギャップがあるかどうかを分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、乳児期・幼児期のどちらも年齢との間には有意な負の相関が見られた(乳児期 $t=-11.984, p<.00$ , 幼児期 $t=-13.363, p<.00$ )。

さらに、職業有無については乳児期・幼児期のどちらも有意な正の相関が見られた(乳児期 $t=2.439, p<.015$ , 幼児期 $t=3.513, p<.00$ )。

図6は、乳児期と幼児期の子連れ外出許容時間について、職業別の平均値をグラフにしたものである。

### (4) 夫参加許容

夫の育児参加への許容意識について、世代間ギャップがあるかどうかを分析ソフト(SPSS)を用いた重回帰分析により検証したところ、年齢と夫の育児参加への許容意識には有意な正の相関が見られた( $t=7.925, p<.00$ )。

図7は、「子連れで外出する際、夫に子供を抱いてもらうのは周囲の目が気になる」という質問に対する「とてもそう思う」から「全くそう思わない」の5段階の回答者数の割合を世代別に集計したものである。

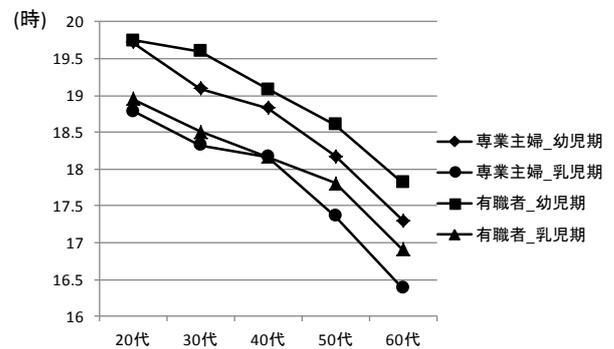


図-6 子連れ外出許容時間-年齢, 職業有無の関係

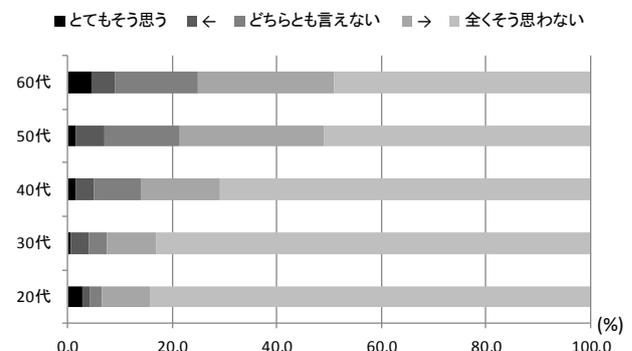


図-7 夫参加許容-年齢の関係

## 6. 結論と今後の課題

アンケート調査の分析の結果、本研究において指定した仮説「子育てに関する意識や行動には、世代間ギャップがある」は、アンケート調査の結果、少なくとも外出頻度、子連れで行ってもいいと思う場所・時間、夫の育児参加への許容意識などにおいて検証された。つまり、子連れ移動および子育てバリアフリーに関する意識や行動には世代間ギャップが存在することが定量的に明らかになった。

インタビュー調査からは、子連れ外出支援についてはエレベーター設置や段差解消などの「施設」面だけでなく、工業製品の普及で家事労働の短縮化が図られたり、通気性の良い紙おむつが開発されたりと、「子育て用具」の面からも子連れ外出がしやすい環境が整えられてきたことが明らかになった。これらの背景も相まって、子育ての方法がここ数十年で劇的に変化し、さまざまな世代間ギャップが生じたと考えられる。

「昔は何もないのが当たり前だった」という意見にも現れているように、子育ては本人や周囲の人の工夫次第である程度は負担を軽減できる可能性がある。具体的にどういった工夫をすればいいのかという「知識」を与えると意味でも、本研究で得られた見識は、既存のハード整備に加え、心のバリアフリーを目指した取り組み、特に「世代間伝承」の重要性を支持するものであると考えられる。

本研究は、子連れ移動および子育てに関する世代間ギャップの存在を明らかにするものであり、現状記述を行った研究である。本研究で得られた事実を踏まえ、今後

行政や公共交通事業者、専門家や子連れ移動者、そして周囲の人々が具体的にどのように行動すべきなのかを模索し、提案していきたい。

[1]もちろん、ほとんどあらゆる社会において意識や行動の「世代間ギャップ」は存在する。しかし、「子育て」への意識と行動の世代間ギャップは、社会問題につながる恐れがあることから、その存在を定量的に示し、世代間ギャップ緩和に向けた取り組みを進めることは社会的に意義のあるものであると考えられる。

謝辞：本研究の WEB アンケート調査は、交通エコロジー・モビリティ財団より研究助成を受けて実施したものである。ここに記して謝意を表す。

### 参考文献

- 1) 野村プレミアランズ株式会社：「ベビーカーの使用マナー」に関する意識調査，2010.
- 2) 柳田穰：公共交通機関の子連れ利用における心理的バリアの軽減を目的とした説得的コミュニケーションによる態度変容効果分析，筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科修士論文，2010.
- 3) 大森宣暁，谷口綾子，真鍋陸太郎，寺内義典：子育て中の母親の外出行動とバリア，土木計画学・講演集 39,CD-ROM, 2009.
- 4) 谷口綾子，柳田穰：子育て時の外出環境の歴史的変遷に関する一考察，土木計画学・講演集 39,CD-ROM, 2009.
- 5) 原田正文：子育ての変貌と次世代育成支援—兵庫レポートにみる子育て現場と子育て虐待予防—，名古屋大学出版会，2006.

(2011.5.6受付)